

令和3年度 長野市地域包括支援センター運営協議会 報告書

日 時	令和3年8月10日（火） 午後1時30分～3時00分
会 場	長野市役所第1庁舎7階 第1委員会室
出席者	委員14人（欠席 藤沢委員、市川委員） 事務局14人 地域包括支援センター代表3人 傍聴者2名
次 第	<p>1 開 会 地域包括ケア推進課 森澤補佐</p> <p>2 あいさつ 小山会長 中澤保健福祉部長</p> <p>3 協議事項</p> <p>（1）令和2年度事業報告について 説明：地域包括ケア推進課 森澤補佐 高戸谷補佐 （資料1）（資料2）</p> <p>（2）令和2年度事業内容の評価について 説明：地域包括ケア推進課 森澤補佐（資料3-1）（資料3-2）</p> <p>（3）令和2年度収支決算・令和3年度収支予算について 説明：地域包括ケア推進課 森澤補佐（資料4）</p> <p>（4）令和3年度事業計画について 説明：中部地域包括支援センター 高戸谷補佐 （資料5）（資料6-1）（資料6-2）</p> <p>（5）介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について 森澤補佐（資料7）</p> <p>（6）その他</p> <p>7 閉 会 地域包括ケア推進課 森澤補佐</p>
質 疑 応 答 要 旨	
委 員	<p>協議事項</p> <p>（1）令和2年度事業報告について（資料1）（資料2）</p> <p>大型商業施設の閉店により、近くの高齢者の生活への影響を調査し、学生と協力して解決に向けた取り組みについて報告があったが、学生も勉強になる良い取り組みだと思ふ。</p>
委 員	<p>認知症で何度も徘徊を繰り返す高齢者に対するGPS付きの靴の活用について、市はどのように取り組んでいるか。また、何かサポートしていただけるのか。</p>
事 務 局	<p>GPS付きの靴の導入にかかる経費の一部を助成している。今年度より要介護認定者以外の要支援認定者・事業対象者の方も助成の対象となった。昨年度は24人が助成を利用した。実際に認知症状のある方がGPS付きの靴を使用するには、いつも同じ靴を履いてもらう必要があるため、利用者ごと家族等の関係者と検討し、使用方法を工夫する</p>

	<p>などしながら利用を推進している。</p> <p>(2) 令和2年度事業内容の評価について (資料3-1) (資料3-2)</p>
委員	<p>医療関係者との意見交換や検討会の場を設けているかという項目の平均達成率が50%以下である。これは、コロナ禍だけの問題ではなく慢性的な問題なのであれば医療関係者側もコミュニケーションをとれるよう努力するべきと思うが、実際はどうか。</p>
事務局	<p>まず、研修会等の集まりが、コロナの影響で少なかったという理由がある。それ以外では、地域によって医療機関の数が少ないなどそれぞれ理由がある。これからは、関係者全員で集まるのではなく、ICTを活用した連携が必要になってくると思うので、基盤の整備を進めていきたい。また良い方法があれば助言をいただきたい。</p>
委員	<p>個別の症例について、書面や電話で回答することはできるので、ご検討いただきたい。</p>
委員	<p>病院の医療ソーシャルワーカーを利用して医師への相談等をするのはどうか。</p>
委員	<p>地域ケア会議の評価について、毎年話題に上がるが、実際に評価を見るとセンターによって開催回数にばらつきがあるように感じる。うまく開催できていないセンターは、多く開催できているセンターと情報交換をするのはどうか。</p>
事務局	<p>今後の参考にさせていただきたい。</p>
会長	<p>委託地域包括支援センターからも日々の業務について感想を教えてほしい。</p>
包括吉田	<p>医療関係者との連携について、日程の調整をすることの困難さが課題となっている。地域内の開業医の休診日を狙って依頼し、勉強会に参加していただいた。</p>
包括富竹の里	<p>地域ケア会議について、地区で開催する個別ケア会議を蓄積して、地域課題を見つけるのが難しく感じている。他の業務が忙しく、会議に出席できないこともあり、ジレンマを感じている。</p>
包括篠ノ井総合病院	<p>病院内にある包括支援センターであるため、医療との連携がしやすい状況にある。また、在宅医療・介護連携支援センターもあるので、一緒に開業医の先生方との連携をしている。管内のケアマネージャーにも声をかけ、一緒に会議を開催できるように努めていきたいと思う。</p>
会長	<p>ケアマネージャーが使用している多職種連携シートのような形だと、先生方も回答しやすいのではないかと。</p> <p>個別ケア会議から地域課題を見つけるのがうまくいかない現状がある。その理由として、個別ケアの困難性を皆で話し合う中でいい方向性を見つけるのが難しい。参加する</p>

<p>委 員</p>	<p>職員の中で似たような事例や、解決した経験などがある人がいるとケア会議が有効的に進むが、いないとただ困難だということで終わってしまう。</p> <p>基幹型センターの職員はたくさんの事例をもっているのを活用して、委託包括のサポートに力を入れなければ、来年も同じ結果になってしまうと思う。</p> <p>全国的に比較できるのであれば、全国の平均点を書いておいてほしい。</p> <p>(3) 令和2年度収支決算・令和3年度収支予算について (資料4)</p>
<p>承 認</p>	<p>(4) 令和3年度事業計画について (資料5) (資料6-1) (資料6-2)</p>
<p>委 員</p>	<p>すでに地域包括支援センターの業務が逼迫している現状で、これ以上充実したものは難しいと思うがどう考えるか。また、金銭的な支援も必要ではないか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>基幹型センターとして、困難ケースの後方支援に努めることで、業務の負担軽減を図っていきたい。困難ケースが多いほど、業務の負担が増えるので、予防活動に力をいれたい。金銭的支援については、介護保険の会計の中で出来る範囲で対応していきたい。</p> <p>(5) 介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について (資料7)</p>
<p>承 認</p>	<p>(6) その他</p>
<p>事 務 局</p>	<p>次回の会議について、令和4年2月を予定</p> <p>以上で議事をすべて終了する。</p>